

3月になり、植えつけをしました。品種は「キタアカリ」です。種イモの分量は約1kg。一個をそのまま植えるのではなく、写真のように包丁を入れます。今回は一片約40gの大きさに切りました。全部で32片です。

この時期になると、ジャガイモには小さな「芽」が出てきます。切り分ける時に、芽を切り落とすことなく、成長し沢山のイモが育つような「芽」を選び、伸びやすさを考え「芽」を上にして植え込みます。



- 切り分けられた種イモ、バケツには乾燥した牛糞堆肥、トレイには鶏糞、袋には配合肥料。

豊作を策して肥料を3種類。しかも、効き目のありそうな肥料を揃えました。

結果が楽しみです。



- 一輪車に箱組を取り付けた手製の運搬車です。

今年は、6人の菜園主で、軽トラ3杯分の牛糞を近くの牧場から購入しました。1人当たり、軽トラ1/2台分になる大量です。ふんだんに使うことができます。

運搬の手段が必要となり、このような運搬車を作りました。この中に牛糞を積み込み一輪車での運搬です。バランスをとるのに苦労の連続でした。

6人分を運搬し終わろうとした時、転倒させ、箱組は無残にも破損。綿密な細工でしたが来年の使用は不可です。



- 運搬され、積み上げられた牛糞とワラ束
ワラは牧場主から無償でのプレゼントです。



- 裁断したワラは掘り返した畑に混ぜ込みます。
強力な押切も個人所有ですが菜園に供えられています。



- 植え込む溝の深さは約20cm。
堆肥として、まず、鶏糞と配合肥料をまぜて溝にまきます。



- 牛糞を追加します。



- 土寄せし、堆肥にかぶせます。
ジャガイモの種が直接堆肥に触れないようにします。
種イモが「焼ける」と云う表現が使われ、収穫量に影響してしまいます。





■ 溝に種イモを並べます。その時、切り口を上に向けると 発芽までに腐りやすくなってしまいます。

腐食を防ぐため に切り口に「灰」を付けたり、切り口を太陽に当て、乾燥させたりします。私は後者の「太陽の恵み」を選びました。

イモの間隔は30～40cmとりました。種イモから沢山の「新イモ」ができます。種イモの間隔が狭いと「新イモ」の成長が阻害されてしまいます。

自由に、伸びやかに育ててほしいです。



■ 最後の土寄せです。畝を作りました。

「新イモ」が成長し畝の土から出てしまい、太陽にあたるとその部分が緑色に変色します。食べると固く不味いです。

今後の管理は、十分な土寄せと、何本も出てきた「新芽」の内、勢いのよい芽を2本ぐらい残し、他の芽をかきとります。「芽カキ」と呼ばれます。イモを肥大させるための落涙作業です。

人の食欲は厳しい選択を迫ります。



■ 植えつけ作業が終了する頃、まさに太陽は富士の裾野に姿を落としつつありました。夕暮れが迫ります。

この日から間もなく、太陽が富士山頂に沈む、「ダイヤモンド富士」のドラマが始まりました。

菜園からの富士の遠望は最高です。ドラマをカメラに収めようと沢山のカメラマン、カメラ女子が集まりました。

ジャガイモの収穫は6月中旬頃になると思います。種イモの約1kgがどれくらいの収量になるか楽しみです。